

＜令和4年度秋季大会ミニシンポジウム企画＞

アオリイカ漁業の現状と将来 ―漁業者との協働研究―

日時・場所：令和4年9月7日（水） 9:00-12:10

企画責任者：宮崎 多恵子（三重大院生資）・江幡 恵吾（鹿大水）

9:00- 9:05 開会の挨拶・企画の趣旨説明

宮崎 多恵子（三重大院生資）

I. 生理・生態

座長：江幡 恵吾（鹿大水）

9:05- 9:30 1. 超音波バイオテレメトリを用いた産卵期のアオリイカの回遊生態

吉田 悠馬（鹿児島県水技セ・広大院統合生命科）・海野 徹也（広大院統合生命科）

9:30- 9:55 2. アオリイカ3種の視覚機能・アカイカアオリイカの飼育下における発生・成長・成熟

宮崎 多恵子・大隅 彪・倉崎 大地（三重大院生資）

II. 漁具・漁法

9:55-10:20 3. アオリイカのエギ釣法 ―漁業及び遊漁の現状と展望―

余田 昂彌・森 有平（株式会社ヤマリア）

10:20-10:45 4. アオリイカ浮式かご漁具の新規導入に向けた試験操業

―種子島漁業者との協働操業の取り組み―

江幡 恵吾（鹿大水）・追立 昭政（種子島漁協）

10:45-10:55 休憩

III. 資源・環境

座長：宮崎 多恵子（三重大院生資）

10:55-11:20 5. アオリイカ人工産卵礁の効果・天然礁の状況

笠岡 祝安（株式会社中山製鋼所）

11:20-11:45 6. 宮崎県におけるアオリイカの資源評価について

圓目 裕介（宮崎県水試）

11:45-12:05 総合討論

座長：宮崎 多恵子（三重大院生資）

12:05-12:10 閉会の挨拶

江幡 恵吾（鹿大水）

企画の趣旨

アオリイカ漁業は人工産卵礁の設置による資源増殖努力に支えられている。これまで大学・行政・企業は、漁業者の協力と助言のもと、効果的な産卵礁の構造と適切な設置場所・水深の検討、イカの視覚特性と海域ごとの光学的環境に応じた疑似餌の開発、かご漁具による捕獲技術の開発ならび

に資源状況調査を行ってきた。本シンポジウムでは、これら漁業者との“協働”研究について紹介するとともに、近年表面化している、海水温上昇による漁獲や餌生物への影響、大型海洋動物による食害等の問題を共有して対応策を議論し、本漁業の振興を図るための知恵を集約する。